

月別概況（令和2年）水産

1月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 939円

一般近海及び小釣物では、タコ入荷少なく保合。平日底曳多く安値。釣り少なく高値。グレ前半入荷安定、保合、後半少なく高値保合、スズキ水揚げ多く安定、イサキ、ガシラ少なく高値、大風多く出漁日数少ない。青物では、サバ県外からの入荷安定保合。アジ県南から入荷安定保合、節分前でイワシ多く強保合、サワラ、サゴシ地物少なく強保合。養殖物では、カンパチ瀬戸内相場若干下げ傾向ハマチ、ブリは、全国的に下がり傾向、在池は、カンパチ少なめ。太物では本ヨコ長崎、島根中心20K以下の水揚げ多く値崩れ起こす、6Kサイズ高値保合、ビンヨコは鹿児島中心水揚げ不安定カツヲは和歌山で見えだすが浜値高過ぎて買えない。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 917円

ホタテ貝柱3S、2Sサイズふるさと納税返礼品に使用の為価格上昇、ボイルホタテ新物が安価の為旧物のスポット出回る在庫のコントロール売上利益の確保が難しい。

加工水産物

1kg当たり平均単価 375円

ちりめん漁は、高知が巢押し採れて値も高い。

2月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 841円

一般近海及び小釣物では、平目、オコゼ入荷多く保合、メイタ入荷安定前年より高値保合、スズキ入荷多く安値、ガシラ入荷少なく高値続く、大風の日が多くなり出荷日少ない。青物では、サバ県外からの入荷安定保合、小アジ入荷少なく強保合、イワシ千葉からの入荷安定保合、サワラ、サゴシ先月と同じく入荷少なく強保合。養殖物では、カンパチ浜値、売値共に高値安定、在池前年並み。ハマチブリ類売り堅調、在池前年並み。太物では本ヨコ長崎の1.0-2.0サイズが多く安値高知沖で2.0サイズが増え値崩れおこす、ビンは鹿児島宮崎が中心。カツヲの入荷は、ほぼなし。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 950円

新型コロナウイルス問題で中国や韓国のカニ需要が著しく減少し相場は、下落。併せて日本の観光街やカニ専門店での需要も大きく減退しており出荷量は、落ち込んでいる。

加工水産物

1kg当たり平均単価 313円

いかなごは、淡路が少なく香川と岡山で少し漁があり高値。

ちりめんは、高知が漁があり高値。

3月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 757円

一般近海及び小釣物では、タコ入荷安定、保合、釣りハマチ、ぶり水揚げ多く安値、グレ入荷安定保合、赤下多く安値、平目水揚げ多く安値続く。青物では、サバ県外からの入荷安定保合、アジ、小アジ少なく大アジ類増えた月初めよりブリ入荷多い、値は、600円ー200円とかなり振り幅があった。養殖物ではカンパチ高値安定、在池少ない、ハマチ、ブリ変わらず堅調な売り在池昨年より若干多い。太物ではヨコ長崎の6Kー8Kが主体、コロナウイルスの影響で浜値も売値も安値、ビン鹿児島宮崎が中心で安値安定、カツヲは、高知愛媛から入りだす、日帰り少なく一日主体浜値高く売りついてこない。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 941円

バナメイエビ等量販店向け商材は、荷動きが活発だがムキエビ伸ばしエビ等の問屋向けは、荷動きが止まっている。原料搬入はコロナウイルスの影響で止まっている為、相場は、上昇中。

加工水産物

1kg当たり平均単価 226円

ちりめんの漁は、高知と宮崎と愛知で取れている、値は、昨年より少し安い。

4月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 725円

一般近海及び小釣物では、チヌ、スズキ、平目定置底曳きで多く水揚げ有り、安値、マコカレイ入荷安定、安値、メイタ相場安定、オコゼ多く安値、全体的に相場悪い。青物では、ゴマサバの入荷安定してきたが値は上下大きく安定していなかった、徐々に県南からブリの入荷少なくなり保合。アジ、小アジの入荷が鳴門筋から多くなってきた。養殖物では、カンパチ高値安定、売れ低調ハマチ、ブリ堅調在池多い。太物ではヨコ長崎6-8K高知2-3Kが主体浜値売値も安いビン鹿児島宮崎中心安値安定、カツヲ高知日帰り少なく1日物が主体鹿児島宮崎千葉からも入荷あるが全体的に水揚げ少ない。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 950円

6年ぶりにシラス鰻の大豊漁となったが年明けからの中国ー世界ー日本とコロナにより供給過多状態で相場が大幅に下落している。中国産では、末端価格は、ここ数年では、一番安くコロナの今後の状況によって予想外に売れる可能性も。

加工水産物

1kg当たり平均単価 349円

西日本のちりめん漁は少ない値は、昨年より少し高い。

塩ワカメが始まり昨年より多く値は、少し安い。

5月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 741円

一般近海及び小釣物では、油目、マコカレイ後半まで安値、前年の半値程の相場、他アッコ等高級魚が前年の約半値。オコゼ、メイタ入荷安定保合。スズキ、チヌ入荷多く安値。青物では、サバ県内外からの入荷安定、保合。アジ、小アジ入荷安定したが豆アジ入荷少ない、イワシ日本海からの入荷安定、保合。養殖物では、カンパチ高値安定売れ堅調。ハマチ、ブリ安値安定、売れ堅調。太物では、ヨコ徳島県南沖で水揚げ多く値崩れおこす、月末に漁獲枠規制。ビン鹿児島千葉が主体、中旬以降は、県南沖で見えだし安値安定、カツオ全体的に不漁、浜値高く売値がついてこない。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 981円

銀サケの相場下がり紅サケの相場上がっている。地場のタコの相場が崩れている為加工メーカー向けの原料販売価格も下がってる。

加工水産物

1kg当たり平均単価 229円

和田島のちりめん漁は、昨年に比べて少なく値は少し高い、香川のちりめん漁が多く値は、少し安い。

6月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 745円

一般近海及び小釣物では、平目、マコカレイ少し相場上がる。メイタ少なく高値。鱧水揚げ少なく高値保合、タコ入荷安定保合、スズキ入荷安定保合。青物では、サバ県外からの入荷安定保合、アジは、福岡からの入荷安定、豆アジの入荷が増えだした。スルメイカ青森からの入荷が安定保合、サワラは、地物があるので安い。養殖物では、カンパチ高値安定、ハマチ、相場安定、ブリ相場下げ気味売れは堅調。太物ではヨコ島根から3K青森から5Kの入荷が主体、ビン県南と高知、和歌山が主体、安値安定、カツヲ高知、和歌山主体、不漁で浜値高く売値があわない。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 774円

冷凍ホタテ上げ相場、カツヲタタキ、ブライン原料は相場安定、P S、B-1原料は不足の為高値で推移、各メーカー入船待ちの状態続く。

加工水産物

1kg当たり平均単価 355円

和田島のちりめん漁は、月の中位から少しづつ漁が多く値は、昨年より少し高い。

7月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 887円

一般近海及び小釣物では、鱧、水揚げ少なく高値続く、マコカレイ高値、コチ入荷安定保合、平目相場少し上がる、サワラ入荷多く下げ相場。青物では、サバ県外からの入荷安定せず少なかったが値は、保合

。小アジ高値、イワシ類県南から入荷あったが下げ相場。養殖物では、カンパチ浜値若干下げ傾向売り堅調、ハマチ、浜値下げ傾向売り堅調、ブリ3年生安定。太物では、ヨコ島根から2K、青森から5Kが主体、ビン鹿児島、和歌山日帰り主体、全体的にサイズが大きい、カツヲ各地不漁で浜値が高く売りがついてこない。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 1095円

徳島含む地タコの相場がかなり下がっているので原料を買いたくても古い在庫の処理がしにくい。コロナの影響によりヨーロッパが大きいタコから小さいタコを買っている為日本好みの小さいタコが不足になり値が上がり見込まれる。

加工水産物

1kg当たり平均単価 649円

ちりめん漁は、昨年と比べ少なく値は、高い。

返りは少なく値は高め。

8月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 733円

一般近海及び小釣物では、鱧、水揚げ多く安値続く。タコ入荷安定保合。サワラ水揚げ多く安値続く。平目少なく高値、コチ、マコカレイ活き高値。青物では、サバ県外から入荷安定、強保合、ツバス月初めは、県外物大量入荷しかし月半ばより地物増えかなり下落。豆アジ四国内からの入荷多く保合。養殖物では、カンパチ浜値下げ気味、売値低調、ハマチ浜値、売り保合、ブリ浜値上げ気味売り堅調。太物では、ヨコ青森4K-6K島根2Kが主体、ビン鹿児島が主体だが全体的に水揚げ少なく浜値が上がり売りがついてこない。カツヲ気仙沼主体、小カツヲ大カツヲが多く売りにくい。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 991円

ズワイガニ8月は、政府、各地方独自の補助金や給付金による外食や観光での盛上りを期待しカニの消費回復も合わせて期待されたが結果は、低調であったがそれにも関わらず産地の卸売価格は、堅調である。

加工水産物

1kg当たり平均単価 725円

ちりめん漁は、お盆過ぎから量は多く値は、昨年より高い。

9月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 780円

一般近海及び小釣物では、平目入荷少なく、高値保合。ポーゼ・太刀魚は入荷多く安値続く。ハモ前半入荷安定・後半少なく高値続く。タコ入荷少なくなり、相場上がる。青物では、サバ県外からの入荷安定。青物では、サバ県外からの入荷安定。小あじ・豆アジ類は、県南高知からの入荷安定。400-700とこちらは保合。サンマのセリ値安く浜値に遠く連なっていない。近海のボウゼ・太刀魚の入荷がかなり多い影響か今月の入荷がかなり多い影響か今月の青物は安い印象。養殖物では、カンパチ浜値下げ傾向。ハマチ・ブリ浜値・売値共に下げ傾向。太物では、ヨコ県南、青森から5k前後が主体。びんは高知沖で水揚げが多く。1

ー 2 k の小ピンが多く値崩れおこす。カツヲは高知が主体。安値安定。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 914円

バナメイ、赤エビなどの量販店向け商材の販売は変わらず好調だが、生産地からの搬入減や漁期のずれ込みにより、サイズや種類によっては、国内品薄感が出だした。

加工水産物

1kg当たり平均単価 675円

和田島のちりめんの漁は、前半は漁が多く値は安い。後半は漁が少なく品物もよくなり値は安い。

10月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 775円

一般近海及び小釣物では、タコ入荷安定し少し相場下がる。太刀魚・ボーゼは入荷受多く安値。サワラは安値続く。ハゲ類他は鍋商材相場下がる。青物では、アジ系小アジ、県南からの入荷安定。今月は祭りもあり高値保合。サバ、九州からの入荷安定。値は保合。サンマ、相変わらず入荷少ない。しかし、相場安値続いた。先月に続き、太刀魚、ボウゼの入荷がかなり多く影響があり安かった。養殖ものでは、カンパチは浜値・安値は下げ気味。売りは堅調。ハマチ・ブリ類は浜値は下げ気味。売りは堅調。太物では、ヨコは青森 6. 7 K が主体。売k 1100~1300。びんよこ・かつおは高知沖で水揚げが多い。暴落した日が続く小サイズが中心 (1.0~2.0k)。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 864円

夏場の暴落相場から一変。供給不足の為、大型サイズの相場が急騰しており、否需要期、台湾シラスのはじまりと相場を左右する指標が多い中、新規でオーダーする事が難しくなっている。

加工水産物

1kg当たり平均単価 592円

ちりめんの漁は全国で少なく品物も少し悪く安値。鯨は漁少なく高値。

11月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 761円

一般近海及び小釣物では、トラフグは安値。平目は水揚げ安定保合。カワハギ類は入荷安定し保合。ハマチ類は入荷が多く安値保合。タコは入荷安定し安値保合。青物では、サバは県外からの入荷安定。値は保合。アジは県南、高知からの入荷安定。平アジは安値。丸アジの入荷少なく、11月は姿が見えなかった。サンマは入荷が少ないが、安値。養殖ものでは、カンパチ、ハマチ、ブリは浜値が下げ気味、売りは堅調。太物では、本よこは高知の室戸で水揚げが多く、1.5~2.5k 主体で安値。浜値は550~560円。びんよこ・かつおは高知に水揚げ多く、小サイズが主体1.5~2.0k。暴落した日が続く、特にかつおは需要が減ってきて売りが厳しい。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 926円

銀サケは、相場が少し上がり、紅サケは不良で高値安定。トラウトはアトランにシフトされている。地物

タコ原料は、年末用で引き合いが強くなっている。

加工水産物

1kg当たり平均単価 629円

ちりめんの漁は、昨年比べて多く値も安定している。数の子は、昨年比べて少なく、値は高い。

12月

生鮮水産物

1kg当たり平均単価 833円

一般近海及び小釣物では、トラフグは安値。ハマチ類も水揚げ多く安値。平目、底曳定置水揚げ多く安値。白甘ダイは入荷少なく高値。全体的に後半は水揚げ多く安値。養殖物では、カンパチ、ハマチ、ブリは瀬戸内の水温がもたない為、週ごとに下げ傾向。売り共に堅調。太物では、本よこは青森、長崎、高知が主体。5K～、K1500、2～3K、K1000～1200。びんよこ、かつおは年末まで高知が稼働。びんよこ、かつお共に1.5～2Kサイズが主体。暴落した日が続く。年末は本よこは売れるが、びんよこ、かつおは需要が減り売りが厳しい。

冷凍水産物

1kg当たり平均単価 971円

アフリカの冬のタコ漁に始まり、中間報告の漁獲量が昨年に比べて、かなり減少しタコの価格がキロ1ドル～2ドル値上げした。これにより、2021年2月以降の価格が上昇すると思われ、厳しい市場になると見込まれる。

加工水産物

1kg当たり平均単価 699円

ちりめんの漁は、昨年よりも多く値も昨年より高く、数の子は、昨年より少なく値が高くなっている。